

△その61▽ヨーロッパ紀行

# マルセイユ だより

藤岡ひろ子

△甲南女子高校専任講師▽

壮大な「旧法王庁」のあるアビニオンを出て、新幹線TGVで約一時間、とうとうフランス南端の港町マルセイユにつきました。サントボームを主峯とする山々を西にひかえ、この町は地中海のさんさんたる光をもとに受ける半円型階段状の都市です。自然の地形を利用した旧港と、西に拡大された新港を含め約七キロあります。海岸にそって東西につくられた古い城壁は、今その影をとどめていませんが、ファロア公園から望む、サン・ジャン要塞はむろんのこと、入口で帽子を差し出す物乞

いのほかは人気のないサン・ピクトールの教会ですら、かつて要塞の役目を果たしたといわれるように、ここは常に地中海からの侵入者に対してたえず緊張を維持続けた町でした。

こうした受動に対し、マルセイユは商業を通じて広い世界と積極的につながる町です。商工会議所（シャンブル・ドウ・コメルス）の壮麗さは、貿易商人の強い権威を示し市庁舎の古い建物とは対象的です。

この建物の左には櫓<sup>か</sup>を持ち二人の天使を従えた航海の神ナビガシオン、右に商業の神コメルスの彫像が高く掲げられています。建物の内部には、この港とゆかりの深いコメルス・ド・マルセイユ号（一七八二―九三）をはじめ、すばらしい商船の模型の数々や、十九世紀に描かれた著名なナバランの海戦図<sup>うしな</sup>つしなど、歴史と芸術の香り高い資料が展示されているのです。谷岡教授の著書で学んではいたものの、この会議所のもつ文化的な機能の多様さに目を見はるのです。

さらに天井の装飾に、この港と交易の深い外国都市名が様々な紋

様と共に刻みこまれているのを見ても、貿易がこの町の強い主張であることが知られます。

海岸に近い「カテドラル」には礼拝堂前面に、金色のひだの深いマリア像があります。その床のビザンチン風のモザイク模様もたとえようもなく美しいのです。この都市のランドマークの一つはなんといっても「ノートルダム寺院」です。小高いギヤルドの丘に、そそり立つ寺院の威厳は、そこに近づくとつれ、壮麗の深みに人の心を誘っていくのです。それは、黒と金とのせん細な堂内の飾りとステンドグラスのもつ、特別な雰囲気によるのかも知れません。ウィーンから来たという一団の人びとの献灯するローソクの光にゆれて見える横壁にはいくつかの船を描いたプレートが見えます。帆船オペイヤー号（一九〇一年）がインド洋で沈んだことがしるされ、その船と乗組員の冥福が祈られています。教会もまたこの町の貿易と航海の安全を祈る場として深い意義があるようです。山を下り、海岸の「岸壁」という名の賑やかな通りは、さし当り神戸の海岸通りに当たりま。海にむけて張り出すカフェテラスには、北アフリカの生れらしい人、アラブ系、そして東洋の人びとの陽気な話し声がひびき合い、空の碧さが、この町の自由への苦悶を忘れさせてしまうのです。

（八月十八日）

（この文は著者ヨーロッパ旅行中よりの同時体験の地域文化論として執筆いたしました）



マルセイユの海岸通り

# 神戸トータルファッションフェアを

## トータルファッションの

### 元年に！

□出席者□

鬼塚喜八郎

〈神戸アシックス社長  
神戸トータルファッションフェア協議会実行委員長〉

木口 衛

〈神戸ワールド会長  
神戸トータルファッションフェア協議会実行副委員長〉

山田 昇一

〈神戸商工会議所専務理事〉

諸岡 博熊

〈珈琲博物館準備室長  
神戸トータルファッションフェア企画小委員会委員長〉

— 今秋、11月21日(水)と11月25日(日)の間、神戸ポートアイランドのファッショントアウンを中心に、「神戸トータルファッションフェア'84」が、盛大に催されます。81年に行なわれた「ポートピア博覧会」以後、着々と歩みつけてきた神戸のファッション産業のトータルな初の一大イベントであり、国際伝統工芸博を実施する京都、大阪21世紀計画など京阪神3都の活発な動きの中でも、とりわけ注目をあびるものと予想されています。今回は、このイベントに積極的にとりこんでおられる方々にお集まりいただき、積極的な夢のあるお話をお願いします。

★神戸トータルファッションフェアは神戸の集大成鬼塚 いよいよ来月は、神戸トータルファッションフェアの開催です。待ちに待った、という感じですよ。10月7日には、ワールド記念ホールのオーブニングイベント〈コスモボリス〉が催されて、これを皮切りに、ファッショントアウンが真の意命で稼働する。嬉しい気分です。神戸市がファッション都市を宣言して、満十年を迎えて、一方では、コンベンション都市としての動きも活発でユニークなものとなりつつあります。このような状況の中で、この2つを一本化する神戸で初めての試みが、



諸岡 博熊さん



山田 昇一さん



木口 衛さん



鬼塚喜八郎さん

神戸トータルファッションフェア'84だといえるでしょう。これは、来年夏のユニバーシアード神戸大会への盛り上がりの中で、大変時宜にみあったイベントであるわけです。神戸らしい神戸をうちだしていくこと、京阪神3都市の中での神戸のファッション産業育成は誠に意義深いものですし、神戸商工会議所の石野会頭の決断によって生まれたこのイベントは、神戸活性化のイベントであることと同時に、将来の神戸のあり方を大きく意味づけるもの、と期待しております。さて、当初はどういう内容にするか、というアウトラインづくりから、大変な事業でもありましたが、神戸は、真珠などの装身具から洋菓子、アパレルはもちろん、ケミカルシューズ、家具、インテリアなど、生活全体にかかわるものをファッションとして捉え、健康、スポーツも含めた新しいライフスタイルを提案しつづけてきたわけですから、トータルなライフスタイルにかかわる産業が、ずいぶんと育ってきているわけです。そこで、これらのすべてを一堂に、トータルに展示し、新しい神戸をさらに力強く印象づけようとするという壮大なスケールのもものになってきました。

基本的には、京阪神ファッションマンスの中で、関西の中の神戸を印象づけ、神戸が、北野町、三宮、ポートアイランドと、これまでの街づくりそのものがファッション都市にふさわしい方向を歩んできており、単に物品を売るだけでなく、息づいた内容のあり方を、このフェアで見せたいと準備会議を重ねてきました。

木口 私自身、石野会頭がユニバーシアード神戸大会の前年の催しとして、神戸トータルファッションフェアをうちだされたことは、立派な発案であり、神戸にとってプラス面の大きいことも考えると、鬼塚さんの言われる通り、時宜にあった素晴らしいものと感激しているんです。とはいえ、問題は、どう取り組むか、ということだったんですね。ファッション・イコール・アパレルではこのイベントは成功しない。神戸のアパレル産業はいち



ばん遅くやってきたんです。神戸の街が何十年もかかって育ててきた異業種のさまざまな産業を見ていただくと同時に、神戸のオペレル産業の成長ぶりもご覧いただきたい。事実、他都市に比べて、神戸は、ファッションをライフスタイルとして、地についた形で、トータルに捉え、育んできたのだから、この基盤がよい条件でそろっているわけであり、それでこそ神戸トータルファッションフェアなんです。

鬼塚 木口さんが神戸のオペレルは遅れてやってきたと言われるのは、私は、むしろ、謙虚すぎるお言葉だと思いますよ。お菓子と家具、それに灘の酒を除いて、ファッション産業の核をなしているものすべて、真珠もケミカルもみんないわば戦後生まれで、必死でやってきた。しかも、着実に、これが神戸なんだ、という具合に実力を発揮してきたものばかりですよ。だから、今こそ、トータルファッションを大声でうたうことができる。

木口 なるほど、さらに鉄鋼、造船を除けば、われわれはみんな戦後派というわけですね（笑）。

山田 私どもは、今回の神戸トータルファッションフェアの主催サイドにあたりますが、来年のグリーンエキスポ<sup>85</sup>やくにうみの祭典、それにユニバーシアード神戸大会など大きなイベント群の中にあつて行政指導中心型でなく、民間の、中小企業が中心になってやろうと言いだした唯一のイベントとして、市民サイドから評価されているんです。

ポートピア<sup>86</sup>で全国的に名をうった神戸のポートアイランドのその後の成長ぶりを、多くの人々に見ていただく絶好の機会だとも考えております。私は、ミラノやロツクフェラー財団の施設、リンカーンセンターなどいろいろ見てきましたが、ポートアイランドは区域としては小さいけれども、まとまりとしては大変利便性に富み、決して見劣りはしない、と自負しているんです。

それに、今だに他都市ではオペレル産業中心で考えられがちだったファッション産業というのが、生活文化

全般と考える「神戸スタイル」の方法を世に問うイベントだとも感じています。「神戸を語ろう、ファッションフェア<sup>87</sup>」というテーマもこのあたりからの発想だと言えますし、また、神戸をどう語り、どう見つめるかという意味でも実にバラエティの富んだイベントと言えますね。プレ・ユニバーシアードの一環事業として捉えるにしても、いろんな位置づけができるし、商工会議所としては、中小企業活性化を重点的に方針づけていることが、基本です。

鬼塚 神戸の現在を支えている地場産業群が、かつての鉄鋼、造船のイメージの下で、ずっと長い間、かくれて目立たない存在だったわけですよ。そして、これら中小と呼ばれていても実力を十二分にそなえてきている神戸の地場産業が世にでるチャンスなんだ、ということなんです。ああ、こんな素敵な神戸があったのか、と……。そして、神戸サイドとしては、文化、つまり新しい産業が、こんなに立派に育ったんですよ、と初めて主張する機会が神戸トータルファッションフェアなんです。

山田 先般、大阪で行なったアンケートでは約90%の人々が神戸に住みたい、っていつてますね。外国人だけでなく、日本人でも同様の反応のようです。神戸のイメージが少しずつ変わりつつあるわけですよ。

諸岡 私は、鬼塚委員長と木口会長から、神戸トータルファッションフェアの具体的な方向づけについての協力要請のお話があったとき、一度は、つくば科学万博の準備もあるので、お断りしたものの、神戸という土地柄のせいか、つい魅かれて企画小委員会の進行を引きうけてしまったわけです（笑）。

ところで、私はこのイベントについては、3つの意義があると思うんです。その1つは、京阪神の都市間競争であり、2つめには、神戸独自のファッションへの捉え方がトータルな方向で最初から動いてはいたけれど、このイベントによって初めて、真のトータルファッショントータルなニューライフスタイルが印象づけられる



日本の2つの才能、菊池武夫と坂本龍一によって開かれる<コスモポリス>会場ワールド記念ホール

だろう。つまり、神戸にとって今年が「トータルファッション元年」といえるのではないかと思うことです。

3つめには、商工会議所の石野会頭が民間主体でぜひともこれを成功させようとの提案です。これを意気に感じて、担当がそれぞれに知恵を出しあった、その結晶が11月に催されるということなんです。

★各社が競いあって神戸独自のフェアの成功を、諸岡 具体的にフェアを実施するにあたって、いきなり派手なことをやって、各企業に負担を重くし、その芽を摘むようになってはいけない、地味であっても着実に、

一つ一つをというのが、石野会頭の方針ですが、私としては、単なる見本市に終わってはならないと考え、「静的」と「動的」の2つの柱を考えてきました。

神戸国際展示場でのトータルファッション展(11月22日~25日)は、神戸のファッション産業を一堂に集めた総合展示で小間を作って見せよう、つまり、静的な要素、新しいライフスタイルを発表、提案するファッションシアターの動的要素によって構成し、市民広場ではステージを設けて、ライブな雰囲気包まれたパザールを行なう予定です。協賛事業としては、10月7日のワールド記念ホールのこけら落としを皮切りに、アシックスによる「ファミリージョギング大会」や「国際サンパフェスティバル」、「クリスマス観葉会コンテスト」など、その他、各社協賛と出展依頼については、事務局である神戸商工会議所の方々が大変に尽力され、いよいよ盛り上がりを見せてきたところですね。

鬼塚 神戸、神戸、といいながら、実は兵庫県全体の企業中での80数社の、いわば物産展的な要素も強いわけです。小野のそばん、三木の刃物、豊岡のカバンなど古くから全国的に知られる名産が一堂に見られます。つまり、市民が、県民が「オラがとこさの自慢の物産」がこんなにあるんだ、ということも改めて発見する場でもあります。

木口 ポートピアが大成に終わったけれど、当時は要するに人工島の建物もなにもない埋め立て地だったわけです。ポートピアに来た人たちは、確かに博覧会で喜んで帰ってもらえただろうけど、その後のポートピアランドがどうなったかということはあまり知られていないと思うんですよ。神戸のポートアイランドが単にポートピアだけのためのものでなく、その後、着々と活動をつづけてきている。まさか、ファッショントアウンが、これほどには、とは思っていませんでしょう。ファッショントアウンを見るだけでも神戸のいき方が、理解してもらえるんでは、と期待していますね。



山田 そうですね。1600万人の人たちがポートアイランドへ来て、みんなびっくりして帰った。私も、その反応にはかえってびっくりした一人です。それが、3年ぶりに来てみると、トータルファッション展やバザールやら、ファッションショーが新しいユニークな建物の中でくり広げられているわけですからね、これこそ、神戸を目のあたりに見るようなカルチャーショックをうけると思いますね。

鬼塚 出展される各社も、神戸トータルファッションフェアで、何をどう展開すればよいのか、最初は特に担当者とはまどいがあったと思うんです。ですけど、自分たちの新しい街づくりだと考えるとき、各社それぞれに趣向をこらして、このイベントに参加したのは当社にとって誇りなんだというふうに少しずつ変わってきて、より良いものを、いや、最高のものを、という意気込みが感じられて嬉しい限りですね。神戸は、そうでなければいけない。

木口 きれいに展示する、というんでなくて、各社、知恵を絞って、競いあう方向は大変好ましいですね。ワールド記念ホールのコスモポリスにしても、私どもの社長の熱の入れようには大変なものがあって、どうやら、各社、加速度的に競争激烈になってきている様子ですよ。この入れこみようこそ、成功のカギといえますね。

諸岡 企画小委員会でもいろんな意見がでて、実に力あふれるものが、フェア全体を熱っぽくさせています。見本市のような小間と展示だけでは面白くないから、もっとよい素晴らしいものを、と、いうふうに欲もでてきて、これが1つずつ具体化していくのですから。今では静的展示の中に、一ひねりの工夫をこらして、動的要素を加えられないかと、開催にむけて、加熱度はなほだし様相ですよ(笑)。

鬼塚 ワールド記念ホールは、来年のユニバーシアードでの会場ともなります。ファッションとコンベンションのプラスαとして、スポーツ的要素もこのフェアの課題

の1つですね。

諸岡 それに、他都市と明らかに異なる特徴として、ファッショントウンが、健康と美を創り出す街だという点これは重要なキーポイントといえますね。

山田 私もその点は同感ですね。神戸トータルファッションフェアには、ポートピア<sup>81</sup>に來られた人々が面白がつて、一つ、神戸の明日をみてやろう、という思いでやってきてもらい、そして、ファッショントウンを歩き回って、一部始終を見ていただきたいものです。

木口 夏に行なった市民広場のビールまつりにしろ、田崎真珠さんのダリ展にしろ、ユニバーシアード前年祭の催しにしろ、みんなポートピア<sup>81</sup>以後、ファッショントウンは大変、好評の縁起のいい場所ですし、当初の予定のように新社屋を各社、ブリックスペースとして、喫茶やレストランにしているため、若い人たちにも人気があります。これは大変いいことですよ。

鬼塚 そうです。このフェアで若い人たちにも、ぜひ、やって来てほしいものです。北野町の異人館を訪れる人たちを、その足でポートアイランドへ向かってもらいたいものです。バスをチャーターするなりして、その流れを作りたいですね。イラストマップでも、異人館とポートアイランドをルートづける必要もあると思います。オーブニングパーティには、11月21日に、神戸のデザインによる神戸らしい本格的なファッションショー(KFC・KFMによる)も予定されていますが、若者の共感を得る方向でやりたいですね。

諸岡 木村重信先生のシンボジウムの後、ファッションショーという段どりですけど、協賛事業のワールド記念ホール、オーブニングイベント「コスモポリス」が、若い人たちの間で、大変な人気ですし、市民参加によるコダックのフォトコンテストもかなりの反響らしい。

鬼塚 神戸トータルファッションフェア<sup>84</sup>は、新しい神戸を築く幕あけです。大いにみんなが参加しよう、と、私たちは思いますね。(レストラン・バーグにて)

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作  
神戸市中央区港島中町 6-3-2  
TEL (078) 302-3321

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男  
神戸市中央区三宮町 1丁目10-1  
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

代表取締役会長 葛野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町 6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

株式会社南インターナショナル

代表取締役 南 泰吉  
神戸市中央区浜辺通 5丁目 1-14  
神戸商工貿易センタービル1701  
TEL (078) 232-1301



シンポジウム



田崎真珠

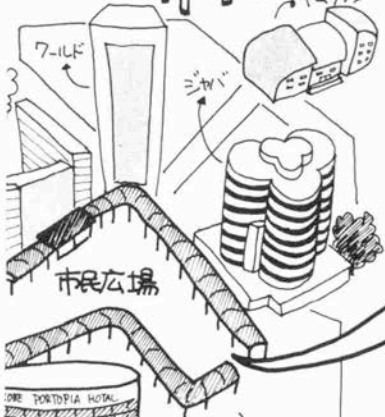


キムタン



ワールド

ジャパ



市民広場

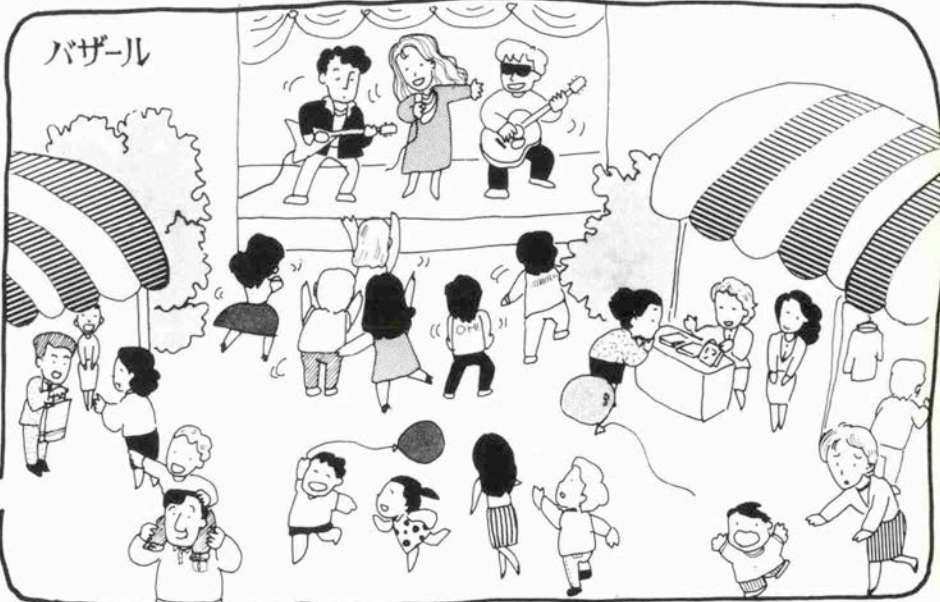
PORTOFIA HOTEL

神戸  
ポートピア  
ホテル



# 神戸トータルファッションフェアを 歩いてみると……

バザール



◇ オープニングパーティ ◇

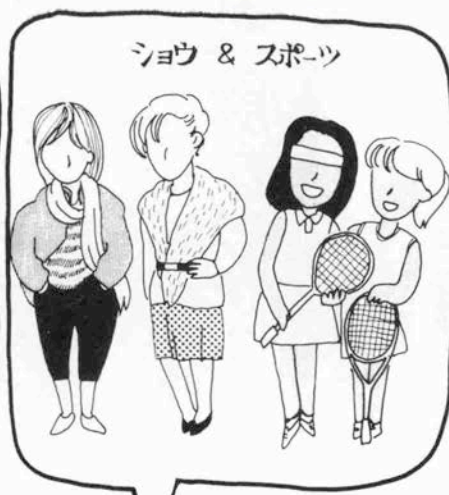


SHOW STAGE

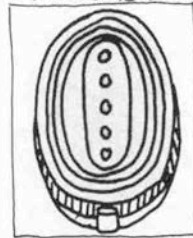




2F  
1F



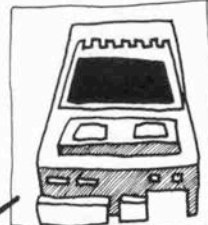
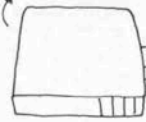
ワールド記念ホール



ポर्टアイランドスポーツセンター



神戸貿易促進センター



神戸国際展示場

市尾広場駅前



●ファッション都市11年の成果を一堂に…

# 神戸トータルファッションフェア開催

●テーマ／神戸を語ろうファッションフェア<sup>84</sup>

ーヒューマン・ライブ・クリエイティブー

●会期／昭和59年11月21日(水)〜25日(日) 於神戸ポートアイランド

●主催／神戸トータルファッションフェア協議会

●後援／大阪通商産業局

神戸市がファッション都市の旗を掲げて十一年になる  
思い起こせば、昭和四十八年の年頭、恒例の「新春合同  
祝賀会」で、故・砂野仁神戸商工会議所会頭（当時）が  
神戸の今後の方向としてファッション都市づくりを提唱  
したのが、「ファッション都市神戸」の誕生であった。

今年、この十一年間の成果を踏まえて、石野信一神商  
議会頭から新たな提唱があった。つまり、神戸のファッ  
ションの特徴は何かというと、単にアパレルだけではな  
く、生活文化全般にわたるトータルファッションという  
ことだ。この神戸のファッションのトータル性を打ち出  
す「神戸トータルファッションフェア」（略称KTF）

## 華麗なファッションパーティーで開幕

その開催概要を紹介すると、まず、開催日前日の二十  
一日、ファッションタウン内の田崎ホールで、「神戸ファ  
ッションの理念と構造」をテーマに、シンポジウムが  
行われる。ここでは神戸のファッションとは何かという  
理念が追求される。神戸在住の文化人、経済人がパネリ  
ストとして登壇し、市民として肌を感じている神戸ファ  
ッションについて、いろいろな角度から意見を出し合  
い、ファッション都市神戸の理念を打ち出す。また合

を開こうという画期的な提唱である。

これまでのファッション都市十一年間の成果をKTF  
Fにおいて集大成をする一方、ある意味で神戸ファッ  
ションを培って来た市民へのサービスをしてはどうかとの  
提案であった。

この提唱を受けて、とくにファッション業界を中心に  
神戸トータルファッション協議会（石野信一会長）が組  
織され、今年十一月二十二日（木）から二十五日（日）  
までの四日間、ポートアイランドでKTFを開催する  
ことが決定した。

さてKTF開催の宣言文をつくる。

この日の夜（六時〜八時）には、神戸ポートピアホテ  
ル偕楽の間で、オーブニングパーティーが開かれる。KTF  
Fのプロローグということで、トータルファッション  
展に参加する企業をはじめ、デザイナーや文化人が一堂  
に会する前夜祭―ファッションパーティーである。

そこでは、コウベ・ファッション・モデリスト（KFM）  
やコウベ・ファッション・クリエイター（KFC）

などのファッションのクリエイターによるファッションショーが行われ、神戸のオリジナルなファッションを展開、KTFのブローグを華やかに彩る。会場では、参加者それぞれがファッションについての意見を活発に

## 多彩な催しのファッションシニアター

さて、二十二日からの四日間には、トータルファッション展、ファッションシニアター、バザールが開かれる。

トータルファッション展は、午前十時から午後六時まで神戸国際展示場で行われる。神戸を彩る衣・食・住のすべてにわたる四十五社十二団体が、一四三の各小間でそれぞれ工夫を凝らし、楽しく、いろいろな発見のある展示を行うとともに、「ヒューマン・ライブ・クリエイティブ」に沿った新しいライフスタイルの提案が行われる。一四三の小間は、「情ゾーン」(アパレル・繊維41、真珠10、靴9)、「知ゾーン」(リビング関連14、大型店9)、「体ゾーン」(スポーツ17、音響3)、「遊ゾーン」(食品19、菓子11、大型店10)に分かれ、総合展示としての体裁をもつ。

一方、総合展示とは別に、ファッションシニアターがトータルファッション展の特色となっている。

ここでは、静的な展示だけではなく、動的にショーを混じえて新しいライフスタイルを発表、提案する。KTFのテーマショーはもちろん、毛皮のファッションシ

交換する姿も見られるだろう。

今回のKTF全体のテーマは「神戸を語ろうファッションフェア」41「ヒューマン・ライブ・クリエイティブ」。すべてこのテーマで展開される。

ヨ、子供服のファッションショーなどの他、ジャズシンや須磨浦女子高校のビートルソサエティの参加なども予定されている。

トータルファッション展の他には、市民広場で四日間バザールが開かれる(午前十時～午後六時)。中央広場とモニメント広場に十三社五団体が五九の小間を設ける。その内訳は、一般小間43、ふるさとコーナー8、手づくりコーナー8。野外のショーステージが設置され、ニューミュージックやジャズ、コーラスなどが多彩に披露される。

トータルファッション展では、単に展示を見えるというだけではなく、楽しいショッピングも出来る。これによって来場する楽しみが二倍にも、三倍にもなる。

トータルファッション展に参加するファッションビジネス各社にとっては、市民へのサービスということを中心に展開することとなるので、ショッピングチャンスとして魅力あるものとなるだろう。

## 協賛事業として魅力あるイベントも

以上の催しとは別にいろんなイベントが協賛事業として行われる。たとえば、総合アートイベント「コスモポリス」(十月七日、於ワールド記念ホール)、国際サンパフェスティバル(十一月二十五日、於ワールド記念ホール)、アシックス・ファミリージョギングフェア(十一月二十三日、於ポートアイランド内)、クリスマス観衆

会コンテスト(十一月二十二日・二十三日、於画廊ポルティコ)など、ファッションショーやスポーツ大会、音楽祭などのビッグイベントがトータルファッション展と連動するように企画が進められている。

これとは別に、神戸トータルファッションフェア写真コンテストが開かれる。テーマは自由。人間らしく生き



生きと自分なりの個性豊かな生き方(装う、食べる、遊ぶ、憩うなど)を讃歌する作品であれば画題は問わない。作品の締切りは、十月十五日(当日消印有効)。発表は会期中、トータルファッション展フォトコーナー

# 神戸ファッションの全てが楽しめる

最終日の二十五日の午後六時三十分からK T F Fの閉会式が、国際展示場中二階多目的室で行われる。

この閉会式において、トータルファッション展部門、バザール部門、ファッションシアター部門それぞれで非常に好評だった展示や催しに対して表彰が行われる。

審査員は、画家の石阪春生氏、神戸地下街専務の森本泰好氏の他、おのころガール、クイーン神戸、消費者代表、デザイナーズ協会代表、主催者代表で構成される。

このように今回の神戸トータルファッションフェアはファッション都市十一年の成果と、明日へ向けての提案を一堂に盛り込んで、楽しさいっぱいのトータルファッション展、バザール、ファッションシアターが展開されるのである。

また、来られる方へのサービスとして、(1)お楽しみ抽せんの実施がある。これは、来場者全員に参加のチャン

(神戸国際展示場二階)で行われる。詳細の問い合わせおよび送り先は、神戸市中央区浜辺通五丁目一―四神戸商工会議所内神戸トータルファッションフェア事務局(電話二五一―〇〇二)まで。

スがあり、スタンブテリング方式とし、トータルファッション展、バザールの両会場でスタンブを集めた人に抽せん資格が与えられる。(2)無料送迎バスも出ている。三宮からK T F Fの会場までバス停を15分間隔で会期中運行する。

神戸市以外の幾つかの都市がファッション都市を表明しているが、今回のK T F Fでも分かるように、神戸はファッション都市として一歩も二歩も先に進んでいる。K T F Fへ参加される市民のみなさんは、神戸の層の厚いファッションのスタイルを楽しんでいただくことが出来る。

とりわけこのK T F Fを通して、「神戸を語ろうファッションフェア'84」というテーマ通りに、神戸そのものがいろいろな角度からトーンキングされるわけで、このK T F Fの成果が大いに期待されるといえるだろう。

神戸トータルファッションフェア  
神戸を語ろうファッションフェア'84  
―ヒューマン・ライブ・クリエイティブ―

## シンポジウム

テーマ/神戸ファッションの理念と構造  
11月21日(水)午後1時30分～5時  
於ファッションタウン内 田崎ホール

## オープニングパーティ

11月21日(水)午後6時～8時  
於神戸ポートピアホテル  
(有料)

## トータルファッション展

11月22日(木)～25日(日)午前10時～午後6時  
於神戸国際展示場  
(入場無料)

## ファッションシアター

11月22日(木)～25日(日)  
於神戸国際展示場2階

## バザール

11月22日(木)～25日(日)午前10時～午後6時  
於市民広場  
(入場無料)

## 閉会式

11月25日(日)  
於神戸国際展示場2階  
ファッションシアター

## <連絡先>

神戸トータルファッション協議会事務局  
神戸市中央区浜辺通5丁目1―14(神戸商工会議所内)  
TEL (078) 251-1001 内線272・273

## 経済ポケット ジャーナル

★藤岡専務が社長に昇格の  
東亜特殊電機

東亜特殊電機は前社長の  
中谷太郎氏が七月二十六日  
死去したことに伴い、後任  
に藤岡繁夫氏が社長に昇  
格した。藤岡氏は昭和30年



藤岡 繁夫氏  
大阪大学工  
学部卒業と  
同時に入  
社。37年取  
締役53年から専務となっ  
た。神戸市出身で現在25歳。

また同社の発表によると  
フランスの通信機メーカー  
テリツカルカテル社と提  
携、ボタン電話装置「アル  
カテル412」を12月から  
発売する。フランス製電話



フランス製電話

機が我が国で発売されるの  
は初めてで、ブティック、  
レストラン、美容院等を販



売対象にしている。

★大丸神戸店店長に  
織田登史男氏が就任

百貨店の大丸神戸店に九  
月一日付で織田登史男新  
店



織田 登史男氏  
長が就任し  
た。織田氏  
は昭和23年  
京都大学法  
学部を卒業、翌年一月榊大  
丸に入社。以後同社大阪店  
と本社営業部を歴任、心斎  
橋店副店長から神戸店へ、  
織田氏は営業畑出身、特  
にファッションに精通し、  
トロージャンを育てジバン  
シイの仕掛人として業界で  
知られている。

「神戸人はすっきりしたフ  
ァッションセンスの持ち主  
だ」と織田氏は指摘する。  
ファッション都市神戸に  
相応しい新店長の誕生であ  
る。

★日本電気神戸支店長に根  
本政徳氏が就任  
日本電気神戸支店は青木



根本 政徳氏  
正治支店長  
が中国支社  
長に転任、  
後任に根本  
氏

政徳氏が就任した。根本氏  
は神戸大学経済学部を昭和  
36年卒業、同年日本電気  
に入社した。現在46歳で、千  
葉支店長を経て23年ぶりに  
神戸に帰ってきたとのこと  
「やっぱり懐かしいね」と目  
を細める一方、業務に関し  
ては「中小企業に対しコン  
ピューターコミュニケーション  
をしていきたい」と意  
欲を語る。

社員とのスキンシップは  
学生時代にならしたテニス  
で、とのこと。神戸に骨を  
埋める覚悟の頼もしい新支  
店長である。

★民営最長の北神トンネル  
貫通、開業は六十二年秋  
北摂、北神地域の宅地開



(右)中田大三電鉄社長  
(左)内田隆造公園総裁

しては日本一の長大トンネ  
ルとなる。

工事は鉄道公団と北神急  
行電鉄の官民共同施工。  
北神側は「重大事故がな  
いトンネル工事だったこと  
が誇り。しかし六十二年秋  
開業までのワンステップで  
す」と、喜びと同時に気も  
ひき締め、最終目標まで  
「ひた走る」もようだ。

## ★KOBEOフィスレディ★

羽馬 君恵さん(25)



甲南女子大学を出て3年。中学以来卓  
球部でならしてきた腕を今はテニスやラ  
ケットボールに。「くよくよしない性格  
だけど、深く考えないところもあって」  
と反省もしきり。企画室に在籍、コンピ  
ューターに伝票やデータを打ち込む仕事  
も慣れてきた。ボール・ニューマン、緒  
方拳が好きな明るい女性。垂水区在住。

△角南商事株式会社V

KTFF 参加

# パールシティ神戸

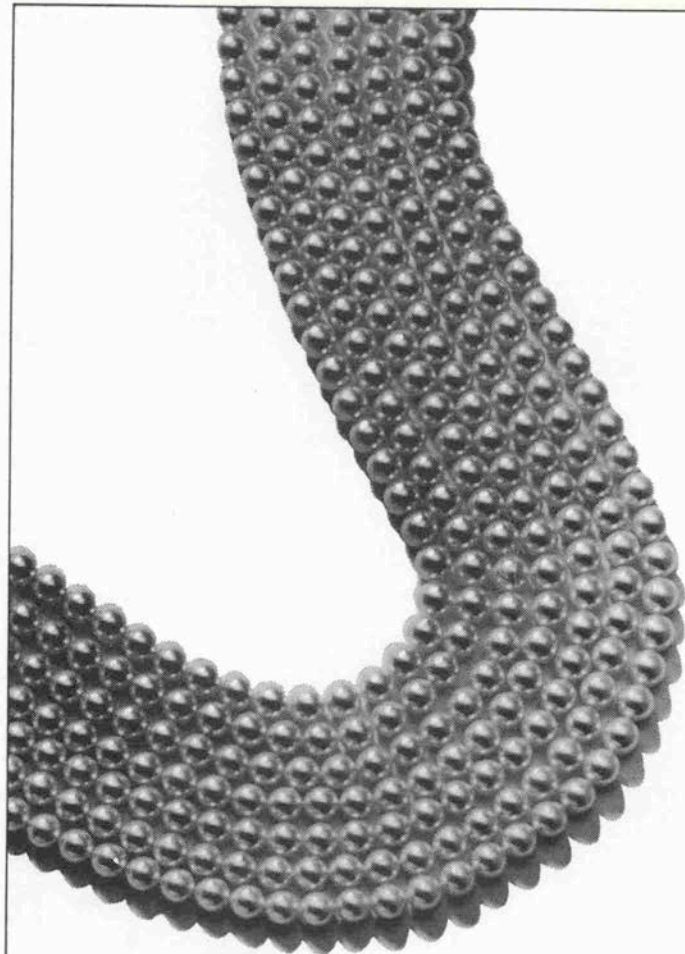


真珠の街神戸ーファッション都市神戸は真珠の輝き。

Pearl City Kobe

THE FASHIONABLE CITY WITH THE WARMTH OF A PEARL.





テーマ

EX 真珠は、生活文化の大切なエクスである。  
[éks]

# 輝きます。

ファッションには、いつだって発見がほしい——  
ひかりあふれる街神戸は、  
真珠に新しい輝きを注ぎます。  
真珠の新鮮な魅力を創造するパールシティー神戸。  
その輝きを、あなたの目で確かめてください。

11/21→25

ポートアイランド神戸国際展示場

社団法人日本真珠振興会



（財）日本眼科医会副会長・兵庫県眼科医会会長  
（財）日本眼科銀行協会常務理事

# ●10月10日は「目の愛護デー」 もつと知ってほしい アイバンクのこと 有澤 武さんを訪ねて

「10月10日は『目の愛護デー』。特に若い女性にとつては眼はチャームポイントの一つであつたりしますが、眼は本当に大切ですね。」

有澤 「何も見えない」というほど不幸なことはありません。このような失明という気の毒な方々が、全国に36万人もおられますが、しかしその中の2万人くらいの方は、角膜移植手術によって視力を回復することができると推定されます。

「本当ですか。それは明るい話ですね。もう少し詳しく教えてください。」

有澤 眼球の黒い所、すなわち黒目は、表面は角膜という透明な膜で、これを通じて光が網膜に達して、はじめ

て物が見えます。病気やケガで角膜が白く濁るとカメラにフタをしたようなもので、見えなくなります。濁った角膜を透明なものに取り替える手術を「角膜移植」といいます。

「角膜移植を受けると、誰でも見えるようになるのでしょうか。」

有澤 視神経や、網膜などに病気があるときは、この手術をしても視力が回復しない場合があります。また、眼球全体の入れ替えは、まだ世界中で成功はしておりません。

「角膜移植は、当然それを提供していただかないといけないことになりませんが、どういう方法をとっておられるのですか。」

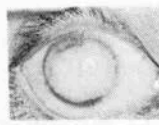
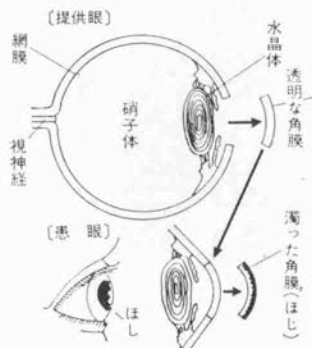
有澤 「盲人に光を」と協力して下さっている多くの人たちの善意にたよって運営されているのが現状です。まず、多くの方々の善意と奉仕の精神によって、自分の目を角膜障害により見えなく、苦しんでいる人々に、死んだときは提供していただく。すなわち、眼球提供のための登録者になっていただくことから始まります。現在もなお、角膜移植によって開眼できる多勢の方が材料と手術を待っておられます。これがアイバンク事業なんです。

「でも、善意に頼るということは、それだけ運営に難



角膜提供を呼びかける有澤先生

## 角膜移植とは



角膜白斑 (ホシ目)



角膜移植後

しい面もあると思いますが。  
有澤 その通りです。アイバンクは営利事業ではありません。すなわち、アイバンクは無償の奉仕機関で、死後提供の角膜も、また必要経費も一般の皆さんの寄付金で運営されているのです。特に現在、経済的に非常に苦しい立場にありますので、こうした機会に、認識していただいて皆さんのアイバンクに対するあたたかいご援助、ご協力をお願いする次第です。  
——具体的に協力しようと思えば、どうすればいいのでしょうか。  
有澤 まず「目を提供」していただく場合、大学病院や病院眼科、近くの開業眼科受付け、または、兵庫県の方は直接『大阪アイバンク』へお申し出下さい。登録用紙をお渡しまたはお送りしますので、それにご本人・近親者が署名・捺印をしてご返送下さい。いざの際、遺族の方から至急に大阪アイバンクに連絡をしていただければ、24時間、当直の神戸大学、兵庫医大、大阪大学の眼科医が眼球をいただきます。死後6〜8時間以内、そして、できるだけ若い方の角膜が良い材料となります。眼球をとった後は、丁寧に処理し、義眼を入れます。

すので、顔の形が変わることはありません。また、寄付・資金のご援助も同じように近くの眼科受付けか、直接大阪アイバンクへ申し込み資料を請求してください。寄付申込書をお渡ししますので、それを送り返してください。個人一口一千元(年額)で何口でも、法人(会社)年額一口一万元、何口でもとなっております。

——アイバンクは全国で何カ所あるんですか。

有澤 現在、全国の大学病院を中心に36カ所あります。全国のアイバンクの多くは、眼球登録者の登録、眼球的摘出、保存と供給を各々に行っていて、運営は眼科医学会員、大学病院眼科、ライオンズクラブが主で、ごく一部に県や市が登録の窓口となっている所もあります。

そして全国の36カ所のアイバンクの全国的な元締めとして、日本眼球銀行協会があり、各アイバンクの共通の悩みである移植のための角膜材料の不足、移植手術の研究発表、資金の不足対策、その他について協議やアドバイスをしております。なお、眼球の足りない日本に同情して、スリランカ国際眼球銀行から、空輸寄贈されたことは、テレビその他の報道でご存知の方もおられることと思います。善意を外国にたよらねばならないことは残念なことです。わが国で足りない理由の多くに、古い日本の体質、宗教上の感覚として、本人の生前の善意の承諾が、遺族にとっては身体の一部に傷つけられることになる不満。故人の体の一部が他人の体内で生きているという意義ないし心理的抵抗感。提供可能な摘出時間が限られている点。など障害になっています。古い日本の体質に対して若い人々の脱皮期待と、潜在する人たちの善意を掘り起こすことも、私の日本眼球銀行協会常務理事の仕事の一つでもあると考えています。一人でも多くの視力障害者の社会復帰のために賢明にして、ナウい神戸の皆さんのご協力、ご援助をお待ちしています。

●財団法人大阪アイバンク

〒553 大阪市福島区福島一丁目 大阪大学医学部附属病院眼科内  
電話 06-451-2283



## ■ 出合いの旅 ■

# 中国磁器を 回教圏に訪ねて



三杉 隆敏  
(小原流芸術参考館副館長)

イスタンブールは不思議な町だ。欧州を旅して後、この町にたどりつくと「ああ東洋だ!」と思う。ところがインドやイランで日を送ってこの町にやってくると「おやこは、もう西洋だ!」と感じる。東洋の香りと、ヨーロッパが楽しく混りあった町がこのイスタンブールである。今も全国民回教を信じる人達がアラアの神に五度も一日にお祈りをする。丸いドームを中心にミナレと呼ぶ鉛筆を立てたような形の尖塔が幾本もあり、その上から「アラア・アクバル・神は偉大なり」と独特の節まわしが聞こえてくる。ブルー・モスクにはミナレが七本もあり、その数の多い方が回教寺院としての格が高い。一本の寺もある。

春先の雨がしとしと降り、ボスボラス海峡をへだてた東洋側のウシクダルの町が雨足で遠く見えたり近くに接ったりする日、海峡を通る汽船の霧笛とコーランの読経の声が重なって、「ああ、日本は遠いことよ」と長期滞在のとき「旅情」をしみじみと感じたものである。

私がイスタンブールをはじめて訪れたのは二十二年前のこと、その後ももう十度近くもこの町を訪れた。十五世紀から十九世紀にかけてオスマン・トルコのスルタン達が居城としたトプカピ宮殿がこの町にあり、一万二千点の中国の磁器がある。実は、私はその焼物の調査のために幾度もここを訪れたのであるが、あのような所に中国の磁器が一括遺物として残っているのは、当初、私とて

信じられないようなことであつた。ところが、その後イランのテヘランに今ある、通称アルデビル・シュライン・コレクションとよぶ、一六一年サファビア王朝の名君シャー・アツバスが彼らの祖先の廟に献納した約八百点の中国磁器を調査したり、ペイルートで、もともとダマスカスの町の二重壁の中に隠されていた約百点の中国染付をも調査、また、ペルシャ湾岸に中国青磁や染付の破片を採集した。

その頃より、私の回教圏との交渉が深まり、各地に旅を重ねた。

日本の今年の夏は暑かった。でも中近東の砂漠に行くのと六、七、八月には五十二、三度である。体温が三十六、七度というのに、そんな高温の所でどうして人間が暮らせるのかと不思議にさえ思った。高原台地のテヘランでもすぐに四十五度くらい気温となってしまう。確かに湿度が百％ゼロなので木陰に入ると涼しい。でも、四十五度を越してしまおうとぐったりして何をする気力もなくなる。

勿論、そんな風土での仕事はすべて午前中のみ、午後は厚い土壁の家の中で昼寝、即ちシエスタをし、じっとして夕方の涼しい風の吹くのを待つのである。はじめは調査が午前中しかできないとボヤいたものであるが、こうするのが当然であると考えなおすようになった。さて、日が暮れると、みんながぞろぞろと家から出て来て

涼を楽しむ。川のある所では堤でお湯を沸かしてチャイを飲む。チャイとは紅茶のことである。

いつかも、アデンを訪れたときのこと、海岸地域にはコロンアル・スタイルの神戸の異人館に似た瀟洒な家が建っているが、その奥から緑の木、一本もみとめられない岩山の麓にひろがる原地人の家は泥煉瓦の茶色の家、どこまでが住居であるのか、山であるのかわからない。

かつて商館のおかれた植民地の町は、欧州人と原地人の居住区が明らかに分かれていて、共通した町づくりのパターンが何処にもある。そして、夕方、日が沈むと、山裾の茶色の家から褐色の肌をした人達が出てくるわ出てくるわ、まるで地虫が土の中から湧いてくるがごとく現れ驚愕を覚えたことがあった。

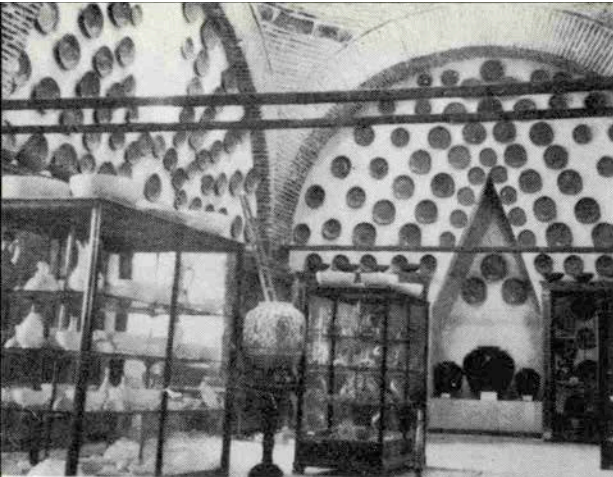
でも、そのような茶色の風土の回教圏に中国の青磁や染付が貴重品として大切に保存されていたことは、それほど多くの人達に知られていない。陶器の底火度の柔い焼物しか作れない彼らには、千三百度の高温で磁土で焼いた中国磁器は、絹や漆と同様、中国特産品としてそれを持つただけでも大変なシンボル・オブ・ステイ

タスであった。

私は回教圏に残る青磁や染付の美しさに惹かれてかの地に行ったのだが、それらが遠い中国からどのようにして運ばれたかという疑問をいだき、重い焼物は陸路のキヤラバンによるよりも船で運んだのではなからうかと推定し、それを実証するため、遺跡を訪れ破片をひろい、文献をしらべ旅を重ねた。

それが私の研究のテーマである「海のシルク・ロード」である。去る五月にも「海のシルク・ロード——中国染付を求めて——」と題する本を新潮選書から出版した（九百二十円）。

私が過去約二十年、どのようにして中国染付に心を惹かれ、何処で何が起り、どのようにして中国磁器海上運輸を調査したか、私の旅、人間としての心の起伏をもふくめて記した。また、沈没船の発見など海の上にも数々のロマンがあり、「陸のシルク・ロード」ならぬ「海のシルク・ロード」にも多くの人が興味を示して下さり心より喜んでいる。



トブカビ・中国磁器陳列室



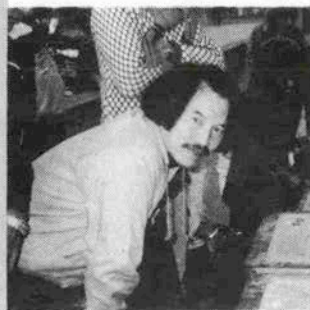
イスタンブールのセントソフィア（上）ブルーモスク（下）





## ■ 出合いの旅 ■

# ネパールの 子供たちとの 交歓まぶしく



田 磨  
(作家)  
新

インド狂にとりつかれて、もう八年になるだろうか。知人のお坊さんの誘いがあったからだ、海外旅行のはじまりは、やはりアジアからとかねがね思っていた念願がなかったのだ。

彼らの仏跡めぐりは、釈迦の七つの教えに従いインド亜大陸には、七つの入口があつて七回のツアーでインドをきわめたいと、そしてすでに五回を消化しているらしい。この旅には、いつもながらジャル・バックなどのコースでない変わった見物をするのが特長である。またすでに日本にも修行にきたインド・ネパールの僧侶のいる寺院を訪ね歩くのだから、懐しさもひとしおである。

わたしは仏教徒でないのだが、カルカッタの寺院でも、ネパールのチベット寺院で聞くお経に、日本で聞くリズムや馴染みのことばにめぐりあうと、思わず笑みをうかべてしまう。そんなささやかな思いが、先祖代々受け継がれた一筋のひかりにふれた気がするのだ。その遙かなるルーツにきている感動が、ジワッと胸に沁みってくる。そんなことがあると、この国の暑い眺めにも一種の親しみがわいてくる。

夕闇せまる街道でふとすれちがう自転車に乗る男。仕事を終え家路に急ぐのであろう。胸にはだけた白いシャツが風におどり、高いめのサドルで腰をふりふり、いっしんにペダルを踏む後ろ姿に、ふと父親の面影がかすめるの。もうこの世にいない父ながら、わたしは余りの似姿

に数歩追いかけて、このあたりにわたしに似た少年がいるかもしれないと、ドキッとするのだ。わたしの前生はこの地かも知れないとつくづく思う一瞬である。

なかでも、もっとも印象的だったのがサンチーの仏舎利塔前での般若心経の合唱である。ボンベイからきたという二十名ほどの仏教徒たちと袈裟をつけた日本の住職たちが、ともに暑いひかりと菩提樹にそよぐ風を全身に受けたのだ。わたしがかつて聞いたどの般若心経のなかにも、あれほどの熱い思いを知らない。時間を超え民族を超え、かわりあえる人間の真理にまみえた祈りにふれたのだ。

はじめてカルカッタに着いたとき（一九七六年九月）いままで嗅いだことのない空気が大地とともにあった。どんなに言いつくしてもつきない匂いと臭気。そしてまた、どんなに彩色してもほどこしえない肌色の人々を見た。大地から、物影から湧き出る男たちの群れがひきもきらない。それはあたかも様々の格好をした男根の熱気——そしてそれを受け入れる女たちが、これまでどこかに潜んでいて、大地や樹木に溶けあい、ガンジス河に漂う。すべてが混沌にはじまり混沌につきる。アジアでもなく、インドでもなく、つまり西洋から流れ出た亜大陸であることを知らされた。

旅の間じゅう、胸さわぎがつづく。しかし子供たちに出会ふと救いがあつた。あどけない顔はどこにもない。





写真はいずれもネパールにて。左と右の手前の少年たちはカトマンドウ。後方の裸の男の子はボカラにて撮影。

貧しい暮らしに立ち向かった貌が並んでいる。裸の幼児を抱えた裸の少女。少年か少女さえも見まがう貌だ。だが、真っ白い歯と澄んだ瞳が、わたしの心を和ませてくれる。涙をたらしけていても、笑うとその白い歯並みに見入ったものだ。

粗朶を道端に並べた子供がいる。売りものはニムの木である。つまり楊枝式に歯をみがくのを使う。子供はぼろをまとい膝をかかえ、売れても売れなくても、日が暮れるまで道端に坐っている。そこに少年の暮らしを見る。カメラを向けると、白い歯が光った。ムシ歯の子を、ついに見なかった。

子供たちの遊びは、どこでも同じだ。ネパールの路地には、いつも子供たちの天国があった。男の子はグッチヤーと呼ぶビー玉遊び。女の子はトッパという石けり。わたしはビー玉遊びをしばらく見下ろしていて、足もとにころがってきたビー玉を拾うと、穴ぼこに向かって指をはじく。ビー玉は運よく穴に落ちる。わっと歓声がわく。通りかかった大人も立ち止まる。また石畳の上では石けり遊び。わたしは、スキップをして急に後ろ向きに身をかわす。女の子の笑いが渦まく。こんなことがまさに旅のダイゴ味だとわたしは思う。

ボカラ（ネパール）の村では、大晦の夜にホテルの庭でチベッタダンスを見た。神社のたきびのように、火を囲んで村の子供たちが大勢つめかかっている。少し寒いくらいだが、子供たちは夜おそくまで愉しそうだ。昼間にふざけあったあまり、ズボンまで下ろしたわんぱく児もきている。エッチなことをよく知っていて、まるでたわいが無い。わたしたちの子供のころとまるで同じだ。

旅は勉強、教室だといわれる。そして三度、四度とインドに足を向けるとき、日本が失ったものの、そのあまりの大きさに気づくのだ。わたしの旅を、たんなる郷愁に終わらせないためにも、これらの国々の子供たちが、二十一世紀にすこやかに育ってくれと祈ってやまないのだ。